

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	ファミリーサポートセンター運営事業(生活支援)	会計	一般会計	事業No.	91	施策順No.	33-005
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-1-14-10		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	福祉課		
施策	33 共に支えあう地域福祉の推進	事業期間	開始	13	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	<ul style="list-style-type: none"> ファミリーサポートを必要としている依頼会員 ファミリーサポートを提供しようとする協力会員 						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		依頼会員数(両方会員を除く)				759	759		
		協力会員数(両方会員を含む)				524	524		
意図		<ul style="list-style-type: none"> 依頼会員が仕事と家庭の両立ができるようにする 地域で助け合う活動ができるようにする 							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		ファミリーサポートセンター活動の実施件数				2880	4532		A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価あり】	会員の増加もあり、目標を上回る実績があった								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	平成13年7月から国庫補助事業として開始したファミリーサポートセンター運営事業の生活支援(障害者や高齢者の困りごとに対する支援)事業。 支援を必要とする人(依頼会員)と支援活動を行うことのできる人(提供会員)とを結びつけて、介護等の在宅支援を行う事業。 社会福祉協議会に運営の全部を委託している。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	社会福祉協議会に対して、生活支援に関する次のファミリーサポートセンター事業を委託する。 1 広報活動とファミリーサポート会員の募集 2 会員に対する講習会等の開催 3 会員のファミリーサポート活動のコーディネート	1 会員数 2 研修会開催数 3 (1)コーディネーター数 (2)活動数	1 1,283人 2 14回 3 (1)0.8人 (2)4,532回
23年度実施計画	社会福祉協議会に対して、生活支援に関する次のファミリーサポートセンター事業を委託する。 1 広報活動とファミリーサポート会員の募集 2 会員に対する講習会等の開催 3 会員のファミリーサポート活動のコーディネート	1 会員数 3 (1)コーディネーター数 (2)活動数	1 1,050人 3 (1)0.8人 (2)2,800回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源			2,723	2,723	2,723	
計(A)			2,723	2,723	2,723	
	正規職員所要時間				3	
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)				11	
	トータルコスト A+B				2,734	

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 議会でも推進すべきとの一般質問があった。 制度を知らない人が多いので、もっとPRをすると良い。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が共に日常生活を支え合う	施策の成果指標又はムツ指標	近隣で支えあいができている市民の割合 福祉ボランティア活動をしている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	日常生活の困りごとに対して、協力会員による支援を行った。		
	後期に向けた課題	引き続き、会員相互のボランティアをコーディネートする必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	会員の募集・研修を行い、市民が共に日常生活を支え合う活動を支援している。		
	後期に向けた課題	一つでも多くの依頼を受けるためには、協力会員をさらに募集していく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	会員相互の助け合いであり、最低限のコストで事業を実施している。		
	後期に向けた課題	引き続き、会員相互の日常生活における支え合いを推進する。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	有償ボランティアであり、依頼会員は利用料金を負担している。		
	後期に向けた課題	引き続き、一定程度の受益者負担は必要である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	事業の中核であるコーディネート機能は社会福祉協議会が行っている。ボランティアである協力会員により、ファミリーサポートセンターによる支え合いが成り立っている。		
	後期に向けた課題	引き続き、社会福祉協議会のコーディネーターや協力会員が必要不可欠である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	ファミリーサポートセンターにより、日常生活のちょっとした困りごとを解決することができている。		
	後期に向けた課題	事業をPRし、広く市民に周知することで、より多くの依頼会員の困りごとに対して、解決できる可能性が広がる。また、協力会員についても積極的に募集していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--